

第1章 岩手県の概要

■ 面積・地形

岩手県は本州の北東部に位置し、東西約122キロメートル、南北約189キロメートルと南北に長い楕円の形をしています。その広さは15,279km²で、北海道に次ぐ面積であり、日本面積377,955km²の4%を占めています。

岩手県の内陸部の大部分は山岳丘陵地帯で占められ、西側には秋田県との県境に奥羽山脈があり、これと平行して東部には北上高地が広がっています。そして、この二つの山系の間を北上川が南に流れ、その流域に平野が広がっています。

沿岸部は、宮古市より北では、典型的な隆起海岸で、海食崖や海岸段丘が発達しています。一方、宮古市より南側は北上高地の裾野が沈水してできた、日本における代表的なリアス式海岸で、対照的な景観をみせています。また、その沖合いは世界有数の三陸漁場となっており、優れた漁港・港湾にも恵まれています。

■ 人口

人口 1,284,384人（平成26年10月1日現在）

人口は、昭和53年から維持してきた140万人台を平成16年に割り込むと、その後も減少し、平成25年には130万人を割り込みました。

世帯数 518,191世帯（平成26年10月1日現在）

世帯数は、増加傾向が続いていますが、平成20年には50万世帯を超え、現在に至っています。また、世帯人員数は減少傾向にあり世帯の小規模化が進行しています。

■ 経済

県内総生産（名目）4兆3,812億円（全国シェア 0.93%）（実質）4兆6,928億円

経済成長率（名目）4.8%（実質）4.7%（いずれも平成24年度）

製造業や運輸業が増加したことなどにより、名目・実質ともプラス成長となりました。

一人当たり県民所得 254万7千円（一人当たりの国民所得（=100）に対する水準：92.5）

（注）一人当たり県民所得は、県民や県内の企業などが得た所得の合計を県の総人口で除して算出したものです。

県内総生産（名目）から見た本県の産業構造の構成比は、第一次産業（農林水産業）が3.6%、第二次産業（鉱業、製造業、建設業）が23.8%、第三次産業が71.8%となっています。

産業別就業者数の構成比は、第一次産業が13.8%、第二次産業が24.1%、第三次産業が62.1%となっています。（平成23年度）

■ 農業

平成 25 年の農業産出額は 2,433 億円で、全国 47 都道府県中、第 11 位となっています。広大な農地や変化に富んだ気象条件など農業資源に恵まれ、各地域で立地特性を生かした多彩な農業が展開されており、我が国の食料供給基地としての役割を担っています。

■ 林業

平成 24 年の林業産出額は、約 183 億円であり、全国第 5 位となっています。森林面積は平成 23 年度で県土の 77% を占めています。

■ 水産業

平成 24 年の漁業生産額は約 289 億円で、全国第 16 位となっています。リアス式海岸の静穏海域や水産物の生育に適した岩礁に恵まれ、あわびが全国第 1 位、さけが北海道に次いで第 2 位になるなど「つくり育てる漁業」の先進県となっています。

こうした漁業を支えるため、沿岸漁場、漁港、漁村の生産・生活基盤の整備や流通加工体制の整備、さけ、あわびなどの種苗放流を進めています。

■ 工業

岩手県の工業出荷額は先端技術産業や自動車関連産業をはじめとする企業立地の進展や地場産業の振興などにより、平成 24 年には 2 兆 2,295 億円となっており、中でも輸送用機械器具 30.8%、食料品製造業 13.7% の工業出荷額の割合が高くなっています。

■ 観光

本県への観光客の入込数は、延べ 2,893 万人回余（平成 25 年度）となっています。

北海道に次ぐ広大な面積を有する本県は、豊かな自然や奥深い歴史・文化、地域色あふれる祭りや伝統芸能、食など、多種多様な観光資源に恵まれており、地域の特色を活かした旅の提案を積極的に展開し、観光客の誘致拡大を図っています。

平成 23 年に世界文化遺産に登録された平泉地域などを情報発信の柱とし、内陸地域と沿岸地域を巡る周遊型の観光を推進しています。



【被災した岩手県沿岸地域の概要】

■ 概況

本県の沿岸地域は、本州最東端に位置し、北は洋野町から南は陸前高田市まで 5 市 4 町 3 村で構成されています。地域の総面積は約 4,946km²。風光明媚な陸中海岸や天然の良港、さらには世界的な漁場等の豊かな自然環境に囲まれた地域です。

この地理的利点を生かした水産業の他にも、世界的シェアを誇る精密機械関連産業や鉄鋼業、セメント製造業等の産業が集積しているとともに、本県内陸地域等で生産された工業製品の積み出し港として陸海の交通ネットワークを形成している地域です。

しかしながら、全国や本県内陸地域と比べ経済的基盤が弱いなどの課題も抱えており、岩手県では、「沿岸地域の発展なくして県の発展はない」との考え方から、県政の最重要課題として、当該地域の振興に重点的に取り組んできました。

■ 自然的特性

総延長が 708km にも及ぶ海岸線は、国内ではほとんど類例をみないほどの変化に富んだ美しい海蝕景観によって構成されており、ほぼ全域が三陸復興国立公園に指定されています。



■ 人口・経済

東日本大震災津波発災前の平成 22 年の沿岸地域の人口は、約 27 万 4 千人で、岩手県の人口の約 2 割を占めていました。人口を年齢構成別にみると、岩手県は全国に比べて高齢者の割合が高く、その中でも、沿岸地域は、高齢化が進行しています。

また、沿岸地域の平成 20 年の純生産額は、5,689 億円で県全体の約 2 割を占めていました。一人当たりの県民所得や有効求人倍率は、県平均を下回っている状況にありました。